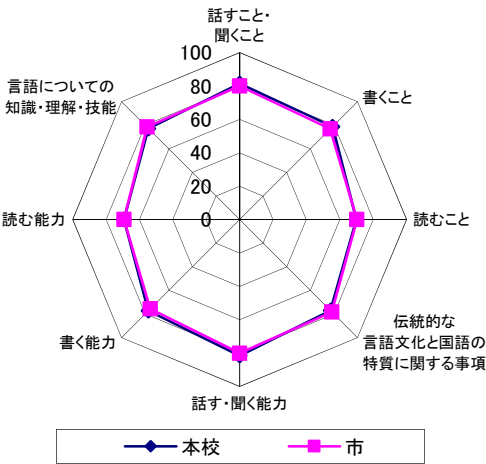


宇都宮市立若松原中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	81.6	80.1	77.9
	書くこと	78.7	76.8	65.3
	読むこと	69.9	70.3	66.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	77.1	78.3	74.3
観点別	話す・聞く能力	81.6	80.1	77.9
	書く能力	77.4	75.6	64.2
	読む能力	69.4	69.2	65.4
	言語についての知識・理解・技能	77.2	78.4	73.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

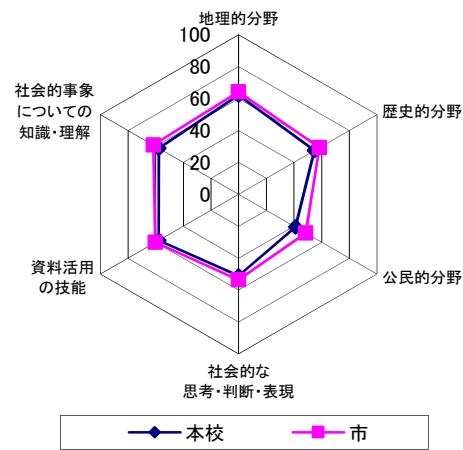
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○話すこと・聞くことの正答率は81.6%で市の平均を1.9ポイント上回る。 ○司会者の工夫を聞き取る問題の正答率は85.4%で市の平均を7.5ポイント上回った。	・単元末テストなどの機会を利用し聞き取りテストを定期的実施してきた成果が表れた。さらに、発表や話し合いの授業で聞く際の観点を示し、何に注意して聞けばよいかを意識して聞かせる取組を続け、わかりやすい話し方や、相手の意図を捉える力の強化を図る。
書くこと	○書くことの平均正答率は78.7%で市の平均を1.9ポイント上回る。 ○書くことに関しては全8問中すべての問題で市の平均を上回ることができた。特に、社会生活の中から課題を決め、多様な方法で材料を集めながら自分の考えを集める問題では全国平均を10.8ポイント上回るなど十分満足できる結果であった。	・単元末テストや定期テストで300字程度の短文問題を出題し、計画的に書くことのスキルを身に付けさせる取組をしてきたことが成果として表れた。 ・また、小学校と連携し、授業で書かせる機会を増やすなど、書く力の向上を図る取組が4年目を迎え、成果として表れた。 ・今後も継続して取り組んでいく。
読むこと	●読むことの平均正答率は69.9%で市の平均を0.4ポイント下回る。説明文の読み取りは、正答率が62.2%で市の平均を2.0ポイント下回る。 ○文学的文章の読み取りは正答率77.7%で市の平均を1.4ポイント上回る。特に表現の特徴を捉える問題の正答率は市の平均を3.9ポイント上回った。	・朝の読書やビブリオバトルの実施など読書指導を充実させてきたことが、文学作品に親しむ機会を増やし、正答率を引き上げた。今後も継続して取り組んでいく。 ・説明文を扱う授業で、発展的に関連する他の説明文を読ませたり、興味を持たせられる説明文の図書を紹介したりするなど、説明文に触れる機会を増やす。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	●伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の正答率は77.1%で、市の平均を1.2ポイント下回る。漢字の読み書きは全8問中5問が市の平均を下回るなど課題である。 ○用言の活用や敬語などの文法に関する問題の正答率は市の平均を上回る。特に敬語の問題は全国平均を15.8ポイント上回る。	・文法に関しては、覚えるべき事柄をまとめ年間通して廊下に掲示し、定着を図ることができたので、継続して実践する。 ・漢字の読み書きは、授業で毎時間小テストを実施するなど取り組んでいる。実際の文章で漢字を使わない傾向が見られるので、国語以外の教科とも連携し、文章を書かせる際に漢字を使うよう指導する。

宇都宮市立若松原中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	62.2	64.1	57.5
	歴史的分野	54.8	58.4	52.8
	公民的分野	41.1	48.5	40.7
観点別	社会的な思考・判断・表現	51.1	53.6	47.5
	資料活用 の技能	57.8	60.3	53.3
	社会的事象 についての知識・理解	57.7	61.8	55.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

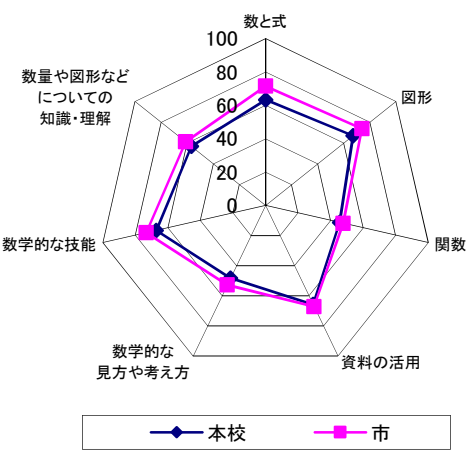
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	・平均正答率は公民よりも高いが歴史よりは低い。市の平均値は下回るものの、参考値の正答率より上回る結果となった。 ○世界の鉱産資源に関する資料活用問題は市の平均を上回った。 ●複数の資料を基に探究し、表現する問題の正答率について、日本の工業地域における課題解決については50%を超え、市の平均とほぼ同じであったが、九州地方の地域の課題解決については50%を下回った。	・資料の読み取りは行っているが、さらに読み取りを強化するため、今後も1つの資料だけでなく、複数の資料を活用し、そこからわかることについて考察する指導を継続していく。 ・知識・理解の観点を強化するために、授業において積極的に社会科の用語を確認していく。
歴史的分野	・平均正答率は3つの領域で一番高い。市の平均値は下回るものの、参考値の正答率より上回る結果となった。 ●複数の資料を基に探究し、表現する問題の正答率について、平城京の特色については30%を下回った。江戸時代の文化の発展に寄与した人物については40%を下回った。開国による日本の社会への影響については市の平均と同じであった。	・1、2年生での既習内容の理解が不十分なところもあるので、授業で復習を織り交ぜながら行う。 ・地理同様、複数の資料からの読み取りができていないため、1つ1つの資料からの読み取りを丁寧に行い、それらを総合して読み取る作業をできるだけ多く、グループ学習を取り入れながら行っていく。
公民的分野	・平均正答率が3つの領域の中で最も低い。市の平均値は下回るものの、参考値の正答率より上回る結果となった。 ●全体的に正答率が低い。特に日本国憲法の三大原則について、50%を超えてはいるが市の平均を10%以上も下回った。 ●複数の資料を基に探究し、表現する問題の正答率については、新しい人権が認められるようになった背景については40%を下回った。	・全体的に既習事項の理解が不十分なので、復習を織り交ぜながら授業を進める。

宇都宮市立若松原中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	63.4	71.5	66.8
	図形	67.0	73.8	70.4
	関数	45.4	47.8	41.6
	資料の活用	65.8	67.1	61.4
観点別	数学的な見方や考え方	48.4	52.8	45.8
	数学的な技能	67.1	73.3	68.1
	数量や図形などについての知識・理解	56.9	61.2	57.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

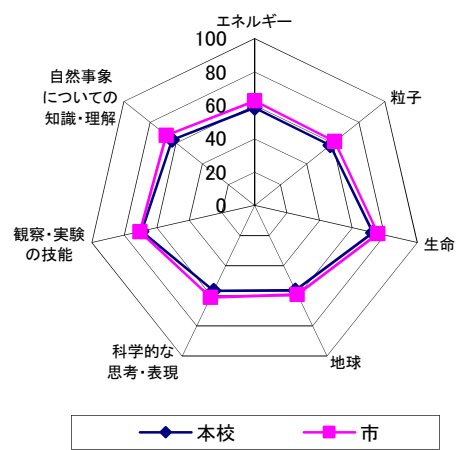
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○基本的な計算の「累乗を含む正負の加法」, 「1次式の減法」において、全国正答率を大幅に上回った。 ●「自然数を選ぶ」問題や、「平方根の大小を選ぶ」ような、知識を扱った問題の正答率が低かった。	・様々な知識を含んだ計算練習を行っていく。 ・1, 2年で学習した内容を忘れがちなので、3年生の内容に関連する授業の中で、1, 2年生での既習の内容も取り扱う。
図形	○「図形の平行移動」を扱った問題では、市正答率・全国正答率を上回った。 ●「証明」のように、論理的思考をする問題が苦手である。	・証明問題を取り扱う際、いきなり証明を書かせるのではなく、教員の発問に対し子どもたちが答える形を取ることで生徒の思考を整理してから、証明をする。 ・三角形の合同条件のように、証明に必要な「条件」についての知識も、常に確認してから問題に取り組ませる。
関数	○市の平均を下回るものの、参考値を上回る結果となった。「面積と関数の関係」について扱った問題では、全国正答率を大幅に上回った。 ●「比例の関係での、x, yの値の変化の関係」について扱った問題では、正答率が低かった。	・関数の問題では、表・グラフ・式の関係を常に考えさせる。その上で、関数のグラフ上に点を取って考える習慣をつけるよう指導することで、具体的な思考をできるようにする。
資料の活用	○市の平均を下回るものの、参考値を上回る結果となった。「ヒストグラム」を扱った問題では、2問とも市正答率・全国正答率を上回った。 ●「グラフを読み取り、多数回の試行の結果から得られる確率を求める」問題では、正答率が低かった。	・サイコロ、じゃんけん、トランプなどの実物を用いた実験をすることで、確率について正確で、より具体的なイメージを持てるようにする。また、数学の楽しさを味わえるような授業にしていきたい。

宇都宮市立若松原中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	58.6	62.7	57.6
	粒子	57.9	61.5	57.7
	生命	72.7	75.8	72.1
	地球	56.3	59.0	45.0
観点別	科学的な思考・表現	56.6	61.0	54.8
	観察・実験の技能	69.4	70.4	64.1
	自然事象についての知識・理解	63.2	67.6	62.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

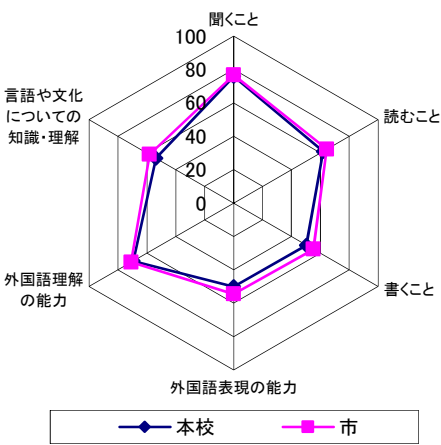
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○市の平均値は下回るものの、参考値の正答率より上回る結果となった。弦の張る強さと音の高さの関係を調べる実験では市の平均点を大きく上回る正答率である。 ●「バッテリーのワット時」や「台車の速さを求める」といった、計算問題で正答率が低い傾向にある。	・授業の中で実験をしたうえで、その実験値がどのような意味を示しているのかを計算をして考えていく授業を重点的に行う。また、計算方法の理解のために計算の練習を多く取り入れていく必要がある。
粒子	○市の平均値は下回るものの、参考値の正答率より上回る結果となった。「鉄の見分け方」といった、知識を利用した応用問題での正答率は平均点を上回る。 ●「化学反応式」や実験した現象を考える問題で正答率が低い傾向にある。	・実験から実験の現象を確認するだけではなく、それがどのようなものかを理解できるような授業展開をしていく。 ・化学反応式などの名前をしっかりと覚えられるように、練習問題を行い知識の定着ができるようにする。
生命	○市の平均値は下回るものの、参考値の正答率より上回る結果となった。「被子植物の花が目立つ色や形をし、昆虫や鳥などの動物を引きつけている理由を説明できる。」といった、動植物の特徴を捉える問題では正答率が高い。 ●「体細胞の染色体の数」といった、現象から考えて解く問題では正答率が低い。	・肉眼では見ることの出来ない小さな現象を顕微鏡で確認することはもちろん、画像や映像資料を利用してよりイメージの付きやすい授業を行う。
地球	○市の平均値は下回るものの、参考値の正答率より上回る結果となった。「石灰岩の層を見分ける方法」についての問題では市の正答率を上回る。 ●天気図から判断してその季節を考える問題では、大きく市の正答率を下回った。	・天気の特徴や天気図の意味が理解できることはもちろん、実際の天気と結びつけてイメージの持ちやすい授業を行う。練習問題を多く解いて、天気図の特徴や季節の特徴を理解できるようにする。

宇都宮市立若松原中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	76.0	76.8	73.1
	読むこと	62.0	64.5	59.9
	書くこと	50.4	55.3	59.7
観点別	外国語表現の能力	50.0	54.5	59.0
	外国語理解の能力	69.4	70.9	65.9
	言語や文化についての知識・理解	53.7	58.2	60.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(英語では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○「聞くこと」の正答率は76.0%で、参考値との比で+2.9ポイントであった。 ○絵を表す英文を聞き取る問題において、正答率が9割強で、市の正答率より約2.5ポイント高い。 ●対話の内容を聞き取り、適切に応答する問題では、正答率は5割弱である。	・積極的に英語を聞き取ろうとする態度は、身についている。より聞く力を高めるために、ALTを活用し、さまざまな場面での対話活動を取り入れ、質問に対する返答の仕方をしっかり身につけさせる。
読むこと	○「読むこと」の正答率は62.0%で、参考値との比較で+2.9ポイントであった。 ●「語法・語形の知識・理解」に関する問題では、名詞的用法の不定詞の問題の正答率が47.3%で、市の正答率より4.4ポイント低い。 ●さまざまな英文を読み取る問題では、説明と資料の情報・条件をもとに読み取る問題の正答率は43.5%で、市の正答率より5.3ポイント低い。	・語彙の力が不足している生徒が多く見られるため、日頃の授業で多くの英文に触れさせ、重要な単語や表現をインプットさせていく。 ・長い文章を読み取る活動を継続し、読み取りのポイントを与えたり、手がかりとなる表現を身につけさせる。
書くこと	○「5文以上の英作文」の問題では、内容のつながりがある英語で記述する問題の正答率が59.4%で、全国の正答率より2ポイント高い。 ●「書くこと」の正答率は50.4%で、参考値との比較で-9.3ポイントであった。	・書きやすいテーマを選び、まとまりのある文章を書く活動を継続して行っていく。また、モデル文や使える表現を提示することで、自分なりのアレンジを加えて英文を書けるようにしていく。 ・授業では、場面設定することで、対話や文章を書く活動に意欲的に取り組めるようにする。

宇都宮市立若松原中学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・自ら考え、家庭学習に取り組む習慣の育成	・知識、技能の定着を図るだけでなく、家庭で考えてくる宿題を出すようにするなど、家庭学習のさせ方を工夫する。 ・家庭学習で「何をやったか」だけでなく、「何ができるようになったか」を重視させる。	・1年生の学習と生活のアンケートの結果、「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」の肯定割合は79.7%(市との差-4.5ポイント)であった。 ・家庭学習ノートの取組に工夫が見られるようになった。 ・家庭学習の成果が小テストや単元テストで見られるようになり、小テストや単元テストの点数が伸びた。
・課題に粘り強く取り組む生徒に育成	・習得した知識・技能を活用する単元を設定し、課題に粘り強く取り組ませる。その際、グループ活動を取り入れるなど取り組ませ方を工夫し、やり遂げさせることで、達成感を味わわせるようにする。	・全国学力・学習状況調査の生徒質問紙調査の結果「物事を最後までやり遂げてうれしかったことがありますか」の肯定割合は74.4%(全国差+3.9)であった。 ・すべての教科で、難しい課題にも取り組もうとする生徒が増えた。 ・国語の定期テストの短作文問題で、無回答生徒の割合が減少した。(6月 23%→2月 13%)

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方針

- ・今年度の学習状況調査（国・県・市）の調査結果を踏まえて、本校の課題を次のように整理した。
課題への取り組みに対し粘り強く取り組むことができない。
家庭学習が質、量ともに不十分で学力の定着が図れていない。
- ・以上を踏まえ、次年度の重点目標を次の3つとした。
主体的、対話的で深い学びを実現するための授業改善に努める。
生徒の学習意欲の向上を図るための教材、教具の工夫改善に努める。
学力の定着のために家庭学習の習慣化と質の向上を図る。